

## 適性診断の結果は運転の可否を判定するものではありません

✕ 「動作の正確さがよくない」って書かれている！  
もう一度診断受けてきて！！  
良い評価になるまで運転禁止！

✕ 診断結果の点数が低いから、僕はダメなんだ。運転できない・・・

✕ 普段の行いが結果に出ている。だからダメなんだ。直ぐ直して



運転者の運転適性を知り、これを踏まえた適切な指導を行うことが重要と考えます

各項目の評価が低いと、実際の運転の際、周囲の状況等により注意を払う必要があります。

ただし、評価が低いからといって直ちに事故が発生するものではありません。

何よりも大切なのは、自身の状況を良く理解し、日頃から評価結果を意識した運転を行うことです。

特別な指導(初任・適齢)時のみならず、日々の業務に診断結果を生かすことが、さらなる事故防止につながるものと考えます

## 適性診断結果の活用

診断結果は占いではない

受診しただけではもったいない

結果を事実として受け入れ、日々の運転業務に反映

- 悪い評価結果が当たったと想定し、何が起こるか**イメージ**してみる
- 評価が低かった項目のうち1つだけを取り上げ、1日など期間を決め対応策を**実践**してみる（結果の振り返りも重要）

（実践例）

- 今日1回以上他車に道を譲ろう
- 今日運転中確認したことをすべて声に出そう
- 今日運転中イライラすることがあれば、必ず深呼吸しよう
- 今日右左折時一旦停止しよう
- 自責によるヒヤリ・ハットが発生したときに適性診断結果を**見返**してみる（診断結果が当たっていなかったか）

## 適性診断結果は事故を未然に防ぐためのコミュニケーションツール

「注意の配分が右側に偏っている」との結果が出た。  
まずは左のサイドミラーを見る時にしっかり首を動かす癖を付けよう

多少慌てやすい傾向が出ていますね。  
大丈夫、運行の遅れはどうしたって出るもの、  
いつでも落ち着いて運転してください

「思いやり運転ができてい  
る」ようだね。ありがとう。こ  
れからもこの調子でお願い  
します

評価が低かったポイント  
を改善できれば優良  
ドライバーになれる。  
一緒に頑張りよう

